

祖母とコスモス

篠田 沙織 東京都大田区 三十八歳

あの日、祖母とデパートに行った。展覧会で美しい絵を見て、レストランで紅茶とチョコレートケーキを食べ充実した一日だった。奥ゆかしく自分の希望をめったに言わない祖母が、帰りにお花売り場に行きたいと行った。

「どのコスモスにしようかしら？」と祖母は私に聞いた。コスモスは祖母の一番好きな花で、家ですでに数種類のコスモスを育てていた。私は不思議に思った。祖母にはなじみの園芸店があり、その店で買ったほうが近所で持つて帰るのも楽だし何よりリーズナブルだ。なぜわざわざデパートで買うのかと思ったが、可憐な花々を二人で見ているうちにその考えは頭から離れた。

「さっきのケーキがおいしかったからこれにしよう」そう言いながら選んだのは、チョコレートコスモスという品種。赤茶色の花びらが印象的だった。祖母の喜びはしゃぐ姿に、私は照れながらも嬉しく、鉢を持って歩いた。

翌年、祖母が旅立った。祖母のいない、二回目のチョコレートコスモスが咲いた日。二人で出かけたのが楽しくて、その日の記念にどうしてもコスモスがほしかったと言っていたんだよ、と母づてに聞いた。

大切な思い出と花が結びついている。その花を見れば大切な人のことを思い出す。私にそんな経験をくれたのは、祖母が初めてだった。今年も秋がやってくる。チョコレートコスモスが咲く日、私の心には祖母の笑顔も一緒に咲く。